

シンポジウム「復興の原理としてのコミュニティオランダからの提言」

The Dutch Approach : integrated framework as a principle for reconstruction

本シンポジウムは、復興まちづくりの何が問題なのかを具体的に明らかにし、どのような過程に基づく、どのような内容の意志決定がなされねばならないか、また、どのような「建築」がなされねばならないか、を考察することを課題とし、各専門分野の垣根を取り除いてプロジェクトを形成、実施するというオランダ式アプローチを学びながら、この課題を考えることを目的とするものである。またこの目的を達成するために、建築家はもとより、土木の専門家、都市計画の専門家、中央政府および地方の復興に関わる専門家そして民間企業のすべての方々に加わっていただき、被災地の未来を拓くため、英知を集めるきっかけになることを期待する。

主催：一般社団法人日本建築学会、オランダ王国大使館

共催：アーキエイド ArchiAid

協賛：オランダ市場協議会、一般社団法人貿易研修センター

日時：2012年7月5日(木) 13:00~17:00

場所：建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

参加費(資料代含む)：会員1,000円、会員外2,000円、学生500円

申込み：Web申込み <http://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=171>

(お申込みがなくてもご参加いただけますが、お席を準備する都合上ご協力ください)

総合司会 宇野求（建築家／復旧復興支援部会幹事／東京理科大学教授）

13:00-13:10 開会挨拶 和田 章（日本建築学会会長／東京工業大学名誉教授）

第一部

13:10-13:20 復興まちづくりの現況-仮設住宅から災害公営住宅へ（仮） 井上俊之（国土交通省住宅局審議官）

基調講演

13:20-13:50 安全、経済、景観を統合的に計画：オランダ式アプローチ

トン・フェンホーフェン（建築家／オランダ政府インフラストラクチャー主席アドバイザー）

13:50-14:20 空間計画の一部としての水管理

ヨス・ファン・アルフェン（オランダ交通・公共事業・水管理省洪水対策上級顧問）

14:20-14:30 休憩

第二部

14:30-17:00 パネルディスカッション

モデレーター 山本理顕（建築家）

報告

14:30-14:50 釜石市の復興計画

嶋田賢和（釜石市副市長）

14:50-15:10 復興まちづくりの課題（仮）

大水敏弘（国土交通省都市局市街地整備課）

15:10-15:30 建築家のできること（仮）

小嶋一浩（建築家／ArchiAid／横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授）

15:30~15:40 休憩

15:40-17:00 パネリスト：トン・フェンホーフェン（前掲）、ヨス・ファン・アルフェン（前掲）、嶋田賢和（前掲）、大水敏弘（前掲）、小嶋一浩（前掲）